

物価高なのに年金引き下げ

原油高や円安の影響で物価

上昇が続くなか、岸田文雄政

相次いでいます。

総務省が21日に発表した消

権は21日に2022年度の公
的年金額を0.4%引き下げ
ると発表しました。新型コロ
ナウイルス感染症や物価高に
あえぐ高齢者に、年金減とい
うさらなる痛みを与えようと

原油価格は20年の春ころか
ら上昇を続け、現在も高止ま
りの状況が続いています。ガ
ソリンや冬場の暖房に欠かせ
ない灯油の値上がりに加え、
製造・輸送コストの上昇によ
って食品や日用品の値上げが

2021年12月に 上昇した主な費目 (前年同月比、%)	
生鮮野菜	6.6
生鮮魚介	9.3
生鮮果物	9.1
調理食品	1.6
肉類	1.9
菓子類	1.9
住居の設備修繕・維持	4.3
電気代	13.4
ガス代	10.5
灯油代	36.0
自動車等関係費	4.5

2021年平均の消費者物価指数の10大項目の前年比(%)										
食料	住居	光熱・水道	家事用品	家具・ 履物	被服及び 被服	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
0.0	0.6	1.3	1.7	0.4	-0.4	-5.0	0.0	1.6	1.1	

削減路線の転換不可欠

消費者物価指数によると、21年
平均の物価は前年比0.2%
減と小幅な下落になっていま
す。

はいずれも2ケタの上昇で
す。
民間シンクタンクからは
「食品の値上げラッシュ、価

しかし消費支出を分類した
「10大費目」をみると、物価
が下がっているのは「保健医
療」と「交通・通信」の二つ
だけ。なかでも影響が大きい
のは交通・通信の「通信」費
で、これだけで全体の物価を
1%近く下げています。前年
比33%減という「携帯電話」
の大幅値下げが、生活実態と
は異なる物価下落を演出した
かたちです。

格転嫁の進展、原油価格の一
段の上昇などが重なれば、
『22年4月にCPIコアが前
年比+2%到達』となる可能
性は十分ある」(第一生命経
済研究所・新家義貴経済調査
部長)との指摘もできていま
す。
(CPIコアは、消費者物価
指数の総合指数から生鮮食品
を除いたもの)。
増加を続けてきた65歳以上
の就業者数が昨年9月以降3
カ月連続で前年同月比を下回
るなど、新型コロナウイルスの影響で
高齢者の雇用環境も悪化して
います。4月をこれ以上の痛
みの春としないためにも年金
削減路線の転換が不可欠で
す。

一方他の費目は軒並み値上
げ基調です。さらに直近の12
月は「生鮮野菜」の前年同月
比6.6%増や「生鮮魚介」
の9.3%増をはじめ生鮮
食品や「調理食品」が高騰。
「電気代」「ガス代」「灯油代」

す。